

地球温暖化が叫ばれるようになり、今年は西日本で過去経験したことのない豪雨による川の氾濫や土砂災害が発生した。死者220人、避難者最大4万2219人、住宅被害は4万8250棟、被害総額は1,370億円という大きな爪跡を残した。被災地の復興課題は山積みと聞くと、被害を蒙った皆様方が少しでも早くもとの状態に戻れることを願ってやまない。北半球の国々でも、日本と同様に40℃を越えるような異常な熱波や猛暑が続いたという。熱中症対策や予防がテレビで取り上げられ、こまめな水分の補給や冷房の使用などの注意を喚起させられた。気象庁は過去30年の気候に対して、著しい偏りを示した天候を異常気象と定義。今年はこの異常気象以外に、「過去経験したことのない」、「想定外」や「未曾有」の災害、「命に危険を及ぼす暑さ」などの言葉をしばしば耳にした。この現象は来年以降も毎年確実に生じる可能性が高く、今後の対策が不可欠である。温室ガス対策などの諸問題を世界レベルで見直すべきであるのに、先進国の首脳からの動きがないのが不思議でならない。

今月号の特集は外陰部・肛門の皮膚病(男性)である。ウィキペディアによると、外陰部・鼠径部・臀部は個人的な部分という意味で“プライベートパーツ”と呼称される。都道府県から依頼される日医の医賠責調査委員会では取り上げられる案件の中で、男性プライベートパーツのもっとも多い疾患が、Paget病である。出来れば人前に出たくない、恥ずかしいという理由で、診察が遅れる、薬だけの処方でも長時間経過している、症状が緩徐に進行するので念頭に入れて診断しないと誤診する、といった例が多い。臨床写真を経時的に撮り、治療が遷延化する症例はときどき診察し、疑わしい場合は躊躇せず皮膚生検を目的とした上級施設へのご紹介をお願いしたい。明日からの診療に是非とも役立てていただきたい特集号である。

(H.M.)

特集 血液疾患と皮膚病

◆editorial

医者の流儀

向井 秀樹

◆topics

アミロイドーシスの最近の知見

山下 太郎, 安東由喜雄

◆総説

リンパ腫の疫学——診療に役立つ皮膚リンパ腫の

最新情報・疫学に関する新知見——

濱田 利久

◆臨床例

多発性骨髄腫に合併した全身性アミロイドーシス

伊賀 佐紀ほか

悪性リンパ腫に合併した水疱症

園田 早苗ほか

下肢に多発結節を呈したTリンパ芽球形リンパ腫

角田加奈子ほか

トシリズムで軽快した菌状息肉症

近藤 麻代ほか

メトトレキサート内服中の関節リウマチ患者に生じた

免疫不全関連リンパ増殖性疾患

桑原 芙美ほか

組織学的に皮膚T細胞性リンパ腫との鑑別を必要とした疥癬

江原 大輔ほか

B細胞リンパ腫に合併し、消長を繰り返した毛包性ムチン沈着症

三輪 祐ほか

手掌の皮膚腫瘍で初発した未分化大細胞リンパ腫

松尾 敦子ほか

結節性紅斑を伴った真性多血症

堤 碧ほか

びまん性大細胞型B細胞リンパ腫患者に生じた

Histiocytoid Sweet's Syndrome

平岩 朋子, 山本 俊幸

両側大腿の浸潤性紅斑を呈した血管内大細胞型

B細胞リンパ腫(IVL)

米倉健太郎ほか

丹毒と鑑別を要した慢性骨髓性単球性白血病の特異疹

鈴木 琢ほか

手指壊疽を逃れたクリオグロブリン血症——B細胞リンパ腫の早期

治療により手指の冷感が改善した症例——

鷲尾 健ほか

臨床経過と検査所見が非特異的で、診断に苦慮した

皮膚T細胞性リンパ腫

齋藤 苑子ほか

◆学会ハイライト

第34回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会

戸倉 新樹

◆皮心伝心

◆蝶の博物詩

波多野 豊

◆診察室の四季

西山 茂夫

◆皮膚科のトリビア

斉藤 隆三

◆声(質疑・応答を歓迎します)

浅井 俊弥

皮膚病診療 Vol. 40, No.10(2018)

平成30年9月25日印刷

平成30年10月1日発行

1部定価2,800円(本体)+税 送料別

年ごめ予約購読料39,000円(本体)+税

発売所／丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル6階

TEL 03-3512-3256(代表・受注センター) FAX 03-3512-3270

編集人 斉藤 隆三

発行人 山田 淳史

発行所 株式会社協和企画

〒105-8320 東京都港区虎ノ門1-10-5 3階

電話:03-6838-9200(代) 03-6838-9225(編集)

振替口座:00190-0-36746

印刷所 株式会社 恒陽社印刷所

ご購入ご希望の方は直接弊社もしくは書店までお申し込みください。

© 株式会社 協和企画 2018年

・JCOPY <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。